

## <IPA 情報発信第 140 号の内容>

### I. 今月のトピックス

#### 1. 国家試験「情報処理技術者試験」の受験手数料を改定

経済産業省において、受験者数の動向などを踏まえ、今後も安定的に試験制度を運営する観点から受験手数料の額が見直され、「5,100 円 (税込み)」から「5,700 円 (税込み)」に改定されました。

#### 2. 遠藤東京オリンピック・パラリンピック大臣ご来構

遠藤東京オリンピック・パラリンピック大臣が、昨今のサイバーセキュリティを巡る状況からその役割の重要性がますます高まる IPA セキュリティセンターに、視察のため 12 月 17 日 (木) に来訪されました。

#### 3. 「2015 年度情報セキュリティの脅威に対する意識調査」、「2015 年度情報セキュリティの倫理に対する意識調査」を公開

IPA は、情報セキュリティに関する対策情報の発信、普及啓発等の活動に役立てることを目的として、インターネット利用者を対象に「2015 年度情報セキュリティの脅威に対する意識調査」「2015 年度情報セキュリティの倫理に対する意識調査」を実施し、その報告書を 12 月 24 日 (木) に公開しました。

### II. セキュリティセンター

#### 1. 重要なセキュリティ情報 (12 月)

### III. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. IoT イニシアティブ 2015「IoT 実践による次世代ビジネスイノベーションの創出と、成功のポイント」を共催
2. IoT 時代 (つながる世界) における安全・安心を確保する技術に関する実証実験を開始
3. 情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編) を公開
4. 国際規格開発賞を IPA 専門委員が受賞
5. 「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCSS2)」の共催 (開催案内)
6. 「品質イノベーションの追求 ~その最新動向と今求められること~」に出展
7. 韓国ソフトウェア安全国際会議 「System Safety International Conference」にて講演
8. 「IISA 技術セミナー」にて講演
9. SEC セミナー開催報告 (12 月) および開催案内 (2016 年 1 月)

### IV. 国際標準の推進

1. 共通語彙基盤「コア語彙 2」を更新

### IV. IT 人材育成

1. 「スキル標準ユーザーズカンファレンス 2016」を開催
2. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を共催
3. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 沖縄」を共催
4. 「Exciting Coding!2015」セッションにて未踏事業を紹介
5. 平成 27 年度秋期情報処理技術者試験 (応用情報技術者試験、高度試験) の合格発表

## I. 今月のトピックス

### 1. 国家試験「情報処理技術者試験」の受験手数料を改定

～平成 28 年度から受験手数料が 5,700 円になります～

(担当理事 (本部長) : 田中、担当センター長 : 山城)

IPA は、「情報処理の促進に関する法律施行令の一部を改正する政令 (平成 27 年 12 月 22 日閣議決定)」に基づき、経済産業省が所管する国家試験「情報処理技術者試験」の受験手数料が改定された旨を、12 月 22 日 (火) に公開しました。

情報処理技術者試験の受験手数料については、「情報処理の促進に関する法律施行令」に定められており、平成 9 年度秋期試験から「5,100 円 (税込み)」とされていましたが、経済産業省において、受験者数の動向などを踏まえ、今後も安定的に試験制度を運営する観点から受験手数料の額が見直され、「情報処理の促進に関する法律施行令の一部を改正する政令 (平成 27 年 12 月 22 日閣議決定)」により、「5,700 円 (税込み)」に改定されました。

#### ■ 情報処理技術者試験の受験手数料の改定

【現行】5,100 円 (税込み) → 【改定後】5,700 円 (税込み)

#### ■ 受験手数料改定の適用時期

i パス (IT パスポート試験) <sup>1</sup>	平成 28 年 (2016 年) 4 月 1 日から適用
i パス以外の試験区分 <sup>2</sup>	平成 28 年度春期試験から適用

受験手数料の改定に関する詳しい情報については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20151222.html>

### 2. 遠藤東京オリンピック・パラリンピック大臣ご来構

(担当理事 (本部長) : 立石、担当センター長 : 頓宮)

遠藤東京オリンピック・パラリンピック大臣が、昨今のサイバーセキュリティを巡る状況からその役割の重要性がますます高まる IPA セキュリティセンターに、視察のため 12 月 17 日 (木) に来訪されました。

IPA からは、サイバー攻撃へ対処するための取り組み、新たに生じた課題への対応および国民一般に向けた対策の事例について説明を行いました。

<sup>1</sup> i パスは、CBT (Computer Based Testing) 方式により通年で随時、試験を実施している。CBT 方式とは、試験会場のコンピュータに表示された試験問題に、受験者がマウスやキーボードを用いて解答する試験方式のこと。

<sup>2</sup> 情報処理技術者試験は、i パスや基本情報技術者試験など全 13 の試験区分で構成。i パス以外の試験区分は春期 (4 月) と秋期 (10 月) の年 2 回に試験を実施しており、試験区分ごとに実施時期と実施回数異なる。

[http://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_11seido/seido\\_gaiyo.html](http://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/seido_gaiyo.html)

### 3. 「2015 年度情報セキュリティの脅威に対する意識調査」、「2015 年度情報セキュリティの倫理に対する意識調査」を公開

(担当理事 (本部長) : 立石、担当センター長 : 頓宮)

IPA は、情報セキュリティに関する対策情報の発信、普及啓発等の活動に役立てることを目的として、インターネット利用者を対象に「2015 年度情報セキュリティの脅威に対する意識調査」「2015 年度情報セキュリティの倫理に対する意識調査」を実施し、その報告書を 12 月 24 日 (木) に公開しました。

本調査は 2005 年から毎年、パソコンおよびスマートデバイス利用者を対象に、情報セキュリティ対策の実施状況、情報発信に際しての意識、法令遵守に関する意識についてアンケートを実施し集計しているもので、今回で 14 回目となります。今回の調査結果の主なポイントは以下のとおりです。

- ・ 悪意の投稿経験があるパソコン利用者が増加し、全体の約 4 分の 1 に。
- ・ “不特定多数とアクセス環境を共有する” フリーWi-Fi を使い、ネットで買い物する割合は 32.4%、11.3%はネットバンキングの利用も。
- ・ 最も脆弱性を悪用される可能性の高い “Adobe Flash Player” を更新していない割合は利用者のうち約 2 割。

報告書の公開した当日から夕方のテレビニュースに取り上げられるなど、情報セキュリティに関する対策情報をより多くの方に知っていただく機会となりました。

「2015 年度 情報セキュリティの脅威に対する意識調査」、「2015 年度 情報セキュリティの倫理に対する意識調査」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20151224.html>

## II. セキュリティセンター

### 1. 重要なセキュリティ情報 (12 月)

(担当理事 (本部長) : 立石、担当センター長 : 頓宮)

IPA では、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報<sup>3</sup>」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では 2013 年 12 月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。

12 月は、「緊急」1 件、「注意」2 件を公開しました。

<sup>3</sup> 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

### Ⅲ. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

#### 1. IoT イニシアティブ 2015「IoT 実践による次世代ビジネスイノベーションの創出と、成功のポイント」を共催

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、12 月 4 日 (金) に泉ガーデンギャラリー (東京都港区) で IoT<sup>4</sup>イニシアティブ 2015「IoT 実践による次世代ビジネスイノベーションの創出と、成功のポイント」を共催しました。

本イベントは IT Forum & Roundtable 事務局 (株式会社経済産業新報社/株式会社ジェイスピン) の主催による、IoT を活用したビジネスについて官民の専門家の講演と議論を行うものです。

IPA は、パネルディスカッションにおいて、モデレータとして議論の進行とまとめを担当した他、IoT 時代に向けた IPA の取り組みに関するパネル展示等を行いました。

当日は、約 300 名の方に聴講いただき、盛況のうちに終了しました。

IoT イニシアティブ 2015 の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20151204.html>

#### 2. IoT 時代 (つながる世界) における安全・安心を確保する技術に関する実証実験を開始 ~ 「つながる世界の開発指針検討 WG」の開発要件を産業ロボット分野で確認 ~

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、12 月 7 日 (月) に IoT 時代 (つながる世界) における安全・安心を確保する技術に関する実証実験を開始しました。

本実証実験は、8 月より IPA で策定中のソフトウェア開発指針<sup>5</sup>の考え方や有効性の検証を目的に、IPA、一般社団法人日本ロボット工業会、一般財団法人機械振興協会の三者共同により、産業ロボット用ソフトウェア ORiN<sup>6</sup>上で製品の安全・安心を確保するための対策技術の実証を目指すものです。

<sup>4</sup> IoT (Internet of Things:モノのインターネット)。様々な機器やシステムがインターネットを通じてつながり、互いに情報をやり取りする仕組みのこと。

<sup>5</sup> IPA「プレス発表 IoT 社会を見据えた国内初の業界横断的なソフトウェア開発指針の策定に着手」(2015 年 8 月 5 日)  
[http://www.ipa.go.jp/about/press/20150805\\_2.html](http://www.ipa.go.jp/about/press/20150805_2.html)

<sup>6</sup> ORiN (Open Resource interface for the Network) : オラインと読む。ORiN は、ORiN 協議会により制定された工場情報システムのための標準ミドルウェア仕様として、製造現場の各種装置に対して、メーカーや製品の違いを超えて統一的なアクセス手段を提供するソフトウェア。現在「ORiN2 SDK」として実用化されており、パソコンのアプリケーションから、異なるメーカーのロボット、工作機械などの制御装置の情報を共通化された方法でアクセスできるため、ソフトウェア開発の工数削減やソフトウェアの再利用性、保守性の向上が期待されている。

本実証実験で得られた結果は現在策定中の開発指針に反映し、その有効性を高めると同時に、内容の充実を図りたいと考えています。また、今後 IoT 製品・機器を開発する企業にとって参考となることを目的に、実験結果を報告書としてとりまとめて公開する予定です。

IPA は、これらの取り組みを通じて、今後、IoT 機器の安全・安心を確保する対策技術が普及していくことを期待します。

本件の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/info/20151202.html>

### 3. 情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編) を公開

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、12 月 3 日 (木) より「情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編)」を公開し、個々の教訓を PDF 形式でダウンロードできるようにしました。

IPA では、2013 年度から情報処理システムの障害事例情報を収集・分析し、対策手法を整理・体系化して、これから導かれた教訓を取りまとめた「情報処理システム高信頼化教訓集<sup>7</sup>」を作成し、公開しました。

今回、利用者がタイムリーに教訓を利用できるよう、WEB のインデックスから参照できるようにし、新しい教訓を作成次第、随時公開します。11 月現在、ガバナンス/マネジメント領域 (G1~G9) および技術領域 (T1~T18) を公開し、12 月は、以下の 1 件の教訓を新たに公開しました。

教訓 ID	教訓の種類	教訓のタイトル
T19	RDBMS のクエリ最適化機能に関する教訓	リレーショナルデータベース (RDBMS) のクエリ自動最適化機能の適用は慎重に！

IPA は、本取り組みを通じて各教訓の活用を促進し、情報処理システムの障害とそれに伴う被害が最小限に抑えられることを期待します。

「情報処理システム高信頼化教訓のリンク集 (IT サービス編)」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/system/lesson.html>

### 4. 国際規格開発賞を IPA 専門委員が受賞

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA 専門委員高橋光裕氏が国際規格策定への貢献を認められ、情報処理学会情報規格調査会より「国際規格開発賞」を 12 月 14 日 (金) に受賞しました。

<sup>7</sup> IPA 情報処理システム高信頼化教訓集 (IT サービス編) 2014 年度版 (2015 年 3 月 27 日)  
[http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20150327\\_1.html](http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20150327_1.html)

国際規格開発賞は、情報処理分野における国際標準化に貢献した個人に対して授与されるもので、IPA の高橋光裕専門委員が、国際規格 ISO/IEC 29155-3 (IT プロジェクトベンチマーキングの枠組み — 第 3 部 : 報告様式) の策定に際し、プロジェクトエディタとしての活動が認められ、受賞・表彰されました。

今後も IPA は、安心なソフトウェア開発と国際競争力の向上を目指し、国際標準化の推進に取り組んでまいります。

受賞規格	ISO/IEC 29155-3 :2015 IT プロジェクト性能ベンチマーキング — 報告様式
受賞者	高橋 光裕 (IPA/SEC 専門委員)
国際規格番号	ISO/IEC 29155-3
国際規格タイトル	Systems and software engineering -- Information technology project performance benchmarking framework -- Part 3: Guidance for reporting
国際規格発行日	2015 年 11 月 15 日

本件の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/info/20151215.html>

## 5. 「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCS2)」の共催 (開催案内)

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と共同で、1 月 19 日 (火) から 21 日 (木) までの 3 日間、コングレスクエア日本橋 (東京都中央区) にて「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCS2)」を開催します。

本ワークショップでは、「つながるクリティカルシステム」をテーマに、「信頼性と検証・妥当性確認 (Reliability and V&V)」「安全性とセキュリティ (Safety and Security)」「プロセスと計測指標 (Process and Metrics)」をサブテーマとして掲げ、それぞれのテーマについて解説する基調講演・招待講演等を行う他、公募による企画コンテストや一般講演も行います。

「第 13 回クリティカルソフトウェアワークショップ (13th WOCS2)」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20160119.html>

## 6. 「品質イノベーションの追求 ～その最新動向と今求められること～」に出展

(担当理事(本部長):立石、担当所長:松本)

IPAは、12月2日(水)に東京大学安田講堂・伊藤国際學術センター・伊藤謝恩ホール・情報学環福武ホール(東京都文京区)で開催された「品質イノベーションの追求～その最新動向と今求められること～」に出展しました。

本イベントは東京大学、株式会社ベリサーブの共催による、医療社会システム工学の研究者および関連医療機関・企業などに向けて、情報処理システムの品質向上に関する講演や展示を行うものです。

IPAは、「IoT時代に求められるソフトウェアエンジニアリング向上」と題し、IoT時代に情報システムの品質向上が求められる背景についての特別講演の他、IoT時代に向けたIPAの取り組みに関するパネル展示等を行いました。

当日は、約250名の方に聴講いただき、「ソフトウェアの進化と便利さとセキュリティの関係がよく理解できた」「ソフトウェア中心のシステム開発の特徴やIoTによる弊害(安全性の課題)など、共感する内容が多かった」といった意見をいただきました。

IPAでは、これらのご意見・ご感想を活かし、今後もイベントへの出展を継続していきます。

「品質イノベーションの追求」の詳細については、次のURLをご覧ください。

[https://www.veriserve.co.jp/event\\_seminar/2015/symposium2015.html](https://www.veriserve.co.jp/event_seminar/2015/symposium2015.html)

## 7. 韓国ソフトウェア安全国際会議 「System Safety International Conference」にて講演

(担当理事(本部長):立石、担当所長:松本)

IPAは、12月1日(火)にCOEX国際会議場(韓国 ソウル市)で開催された韓国ソフトウェア安全国際会議「System Safety International Conference」にて講演しました。

本国際会議は、韓国 TTA<sup>8</sup>主催による、産学官の様々な業界・立場の有識者がソフトウェアの安全性に関するテーマで講演を行うものです。

IPAでは、「Improvement of Reliability of Critical Systems by Sharing of Lessons Learned from Failures(邦題:事例から学ぶITサービスの高信頼化へのアプローチ)」と題した基調講演を行い、主に「情報処理システム高信頼化教訓集」について、取り組みの背景と内容・活用方法を紹介しました。

本基調講演では約300名の方に参加いただき、来場者の満足度は高く「事例中心の説明で良かった」などのご意見もいただきました。

IPAでは、これらの意見・感想を活かし、今後も講演活動を継続していきます。

<sup>8</sup> TTA(Telecommunications Technology Association):情報通信技術協會

## 8. 「IISA 技術セミナー」にて講演

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、12 月 10 日 (木) にマリオス (岩手県盛岡市) で開催された「IISA 技術セミナー」にて講演しました。

本セミナーは、岩手県情報サービス産業協会 (IISA) の主催による、「ソフトウェア見積り解説」と「組織目標と IT 導入の整合性を図るために」の 2 つのテーマで講演を行うものです。

IPA は、「組織目標と IT 導入の整合性を図るために」の講演において、組織の目標と戦略、目標の達成度評価を定量的・体系的に記述する手法 GQM+Strategies について解説し、組織に IT を導入する際に GQM+Strategies を利用する方法を紹介しました。

本セミナーでは 18 名の方に参加いただき、来場者からは「東京での参加が難しいので、地方開催はありがたい。地方セミナーのメニューや規模を増やして欲しい」「GQM+Strategies による事業の可視化・明確化は良いと思う」「演習が面白かった」といった意見をいただきました。

IPA では、これらの意見・感想を活かし、今後も講演活動を継続していきます。

「IISA 技術セミナー」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.isop.ne.jp/iisa/event/iisaseminar2015.html>

## 9. SEC セミナー開催報告 (12 月) および開催案内 (2016 年 1 月)

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

12 月は、次の日程で実施しました。

- ・ IoT 時代に求められるセーフティ設計・セキュリティ設計  
(12 月 7 日)

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151207.html>

- ・ 組込みシステム障害未然防止のための体験型ワークショップセミナー  
(12 月 9 日)

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151209.html>

- ・ SEC 高信頼化技術セミナー  
モデルベースシステムズエンジニアリング入門  
～システムを考えるハンズオンワークショップ～  
(12 月 10 日)

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151210.html>

- ・ 定量データに基づく開発マネジメントで IoT 時代の信頼性・生産性向上を目指せ！  
～「ソフトウェア開発データ白書」と「組み込みソフトウェア開発データ白書」から垣間見える信頼性の実態～  
(12月18日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151218.html>
- ・ 定量的なプロジェクト管理・ベンチマーキングのススメ  
～見える化による生産性・信頼性の向上～  
(12月22日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151222.html>

2016年1月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・ 共通フレーム解説とプロセス改善推進セミナー  
～ソフトウェア開発プロセスにおける組織の課題を見つけて改善するために～  
(1月13日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160113.html>
- ・ SEC 高信頼化技術セミナー 上流工程における問題を解決するために  
～ソフトウェアエンジニアリングに基づく形式手法入門～  
(1月15日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160115.html>
- ・ SEC 高信頼化技術セミナー  
厳密な仕様記述入門 仕様書について考えるワークショップ  
(1月20日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160120-02.html>
- ・ 第5回定量的マネジメントセミナー (PPMA)  
(1月29日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160129.html>

#### **IV. 国際標準の推進**

##### **1. 共通語彙基盤「コア語彙2」を更新**

(担当理事(本部長): 立石、担当センター長: 田代)

IPAは、公開中の共通語彙基盤「コア語彙2」を更新した「コア語彙2 (Ver 2.3)」を12月18日(金)に公開しました。

コア語彙は、共通語彙基盤の基礎をなすもので、氏名、住所、組織等、あらゆる社会活動で使用される中核的な用語の集合です。多くのシステム間で情報交換のための基礎となる語彙で、データ交換、オープンデータの二次利用等の効率化に役立つものです。

「コア語彙」は、2月に「コア語彙2 正式版 (Ver 2.2)」として公開し、その後も継続して見直しを行っています。今回の更新内容は、「単位」について大幅に見直した他、実運用を経て利用者から出されたご要望について検討した結果を反映しました。

「コア語彙」につきましては、情報連携の際に、意味や典拠を明確にするとともに、体系化、階層構造化により正確に物事が表現できる様、更に検討を続けていきますので、どうぞご期待ください。

「共通語彙基盤 コア語彙2 (Ver 2.3)」については、次の URL をご覧ください。

<http://goikiban.ipa.go.jp/node1087>

## IV. IT 人材育成

### 1. 「スキル標準ユーザーズカンファレンス 2016」を開催

(担当理事 (本部長) : 田中、担当センター長 : 秋元)

IPA は、特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会 (SSUG) と共催で、「スキル標準ユーザーズカンファレンス 2016」を 12 月 8 日 (火) に目黒雅叙園 (東京都目黒区) で開催しました。

本カンファレンスでは、『将来を考える組織・個人の基盤「i コンピテンシ ディクショナリ」～ 今こそ理解し、有効活用を！～』をテーマとして、i コンピテンシ ディクショナリ (iCD) に関する多様な事例や最新動向を紹介するとともに、IPA は次の講演を実施しました。

- ・ iCD を中心とした IPA の人材育成施策の方向性
- ・ 見えてきた！ iCD 活用による具体的な成果について

当日は、500 名を越える方にご聴講いただき、ご好評をいただきました。

IPA では、iCD の活用がますます広がり、IT を利活用する様々な組織・個人が共通して参照する「人材育成のプラットフォーム」として発展していくことを期待します。

本カンファレンスの詳細については、次の URL をご覧ください。

[http://www.ssug.jp/event/conference\\_2016/](http://www.ssug.jp/event/conference_2016/)

### 2. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を共催

(担当理事 (本部長) : 田中、担当センター長 : 片岡)

IPA は、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道 2015 (札幌)」を札幌市産業振興センターと (株) インフィニットループ (ともに北海道札幌市) で 12 月 12 日 (土)・13 日 (日) の両日開催しました。

北海道での地方大会の開催は、昨年度に引き続き 2 回目となり、経済産業省北海道経済産業局や一般社団法人 LOCAL など地元のご協力を得て、一般講座と専門講座の 2 講座を実施しました (一般講座参加者 46 名、専門講座参加者 17 名)。

1日目の一般講座では、地元の講演として、北海道警察本部から最近のサイバー犯罪の統計と発生の傾向に関する講演がありました。また、全国大会で実施したWebやアプリケーション分野の講義のうち3講義をダイジェスト形式で紹介しました。一般講座と平行して、2日間に渡り実施した専門講座では、Web・アプリケーション分野の座学と演習を中心に実施しました。演習では、参加者の多くが時間内に課題を達成し、Web上で行われる通信についての理解を深めることが出来たようです。

「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」の詳細については、次のURLをご覧ください。

[http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2015/minicamp2015\\_hokkaido.html](http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2015/minicamp2015_hokkaido.html)

### 3. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 沖縄」を共催

(担当理事(本部長)：田中、担当センター長：片岡)

IPAは、セキュリティ・キャンプ実施協議会、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県と共同で「セキュリティ・ミニキャンプ in 沖縄 2015」を沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)と(独)国際協力機構(JICA)沖縄国際センター(同県浦添市)で12月18日(金)から20日(日)までの3日間開催しました。

沖縄県での地方大会の開催は3回目となり、地元共催機関の他、特定非営利活動法人フロン沖縄推進機構のご協力も得て、一般講座と専門講座の2講座を実施しました(一般講座参加者57名、専門講座参加者20名)。

1日目の一般講座では、地元の講演として、沖縄県警察本部よりサイバー犯罪の現状と対策に関する企業向けの話がありました。また、セキュリティ・キャンプの講師からは全国大会でも講義として取り上げたファジング<sup>9</sup>が紹介され、スマートテレビをはじめとしたIoT製品の脆弱性を発見し、事前対策することの重要性の説明を行いました。

2日目の専門講座では、車載ネットワークであるCANを題材として、実験用の環境で実際に流したCANのメッセージを各人のPCで解析しました。講義を通じて、参加者は、自動車を含めたあらゆるモノでセキュリティが重要となっていることが体感できたようです。

「セキュリティ・ミニキャンプ in 沖縄」の詳細については、次のURLをご覧ください。

[http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2015/minicamp2015\\_okinawa.html](http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2015/minicamp2015_okinawa.html)

<sup>9</sup> ソフトウェア製品などに何万種類もの問題を起こしそうなデータを送り込み、製品の動作状態から脆弱性を発見する技術。

#### 4. 「Exciting Coding!2015」セッションにて未踏事業を紹介

(担当理事(本部長): 田中、担当センター長: 片岡)

IPAは、12月16日(水)に日本マイクロソフト株式会社(東京都港区)で開催された、情報処理学会「Exciting Coding!2015」にて、IPA未踏事業セッションを実施しました。

本セッションでは、未踏事業の説明および、落合陽一氏(筑波大学 助教 2009年度未踏スーパークリエイター)と青木俊介氏(ユカイ工学株式会社 代表 CEO 2008年度未踏クリエイター)が、未踏事業での経験や、未踏事業に対する思いの他、最新の研究開発成果等について講演を行いました。

当日は、53名の方々にご聴講頂き、ご好評いただきました。

情報処理学会「Exciting Coding!2015」の詳細については、次のURLをご覧ください。

[http://www.ipsj.or.jp/event/s-seminar/2015/Exciting\\_Coding/index.html](http://www.ipsj.or.jp/event/s-seminar/2015/Exciting_Coding/index.html)

#### 5. 平成27年度秋期情報処理技術者試験(応用情報技術者試験、高度試験)の合格発表

(担当理事(本部長): 田中、担当センター長: 山城)

IPAは、平成27年度秋期情報処理技術者試験(所管: 経済産業省、10月18日(日)実施)のうち、応用情報技術者試験と高度試験の合格者を12月18日(金)に発表しました。

応募者数、受験者数、受験率、合格者数、合格率は以下のとおりです。

試験区分	応募者数	受験者数	合格率 ※(%)	合格者 平均年齢	
応用情報技術者試験	50,594	33,253	23.4	28.9	
高度試験	ITストラテジスト試験	6,663	4,487	14.6	39.9
	システムアーキテクト試験	8,181	5,274	13.2	36.3
	ネットワークスペシャリスト試験	18,990	12,407	14.6	32.8
	情報セキュリティスペシャリスト試験	28,274	18,930	16.6	33.6
	ITサービスマネージャ試験	5,673	3,858	13.2	39.7

※合格率=合格者数/受験者数

なお、今回のネットワークスペシャリスト試験では、13歳の中学生が合格し、これまでの最年少年齢(16歳)を更新しました。

各試験の統計に関する詳しい情報については、次のURLをご覧ください。

[http://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_07toukei/\\_index\\_toukei.html](http://www.jitec.ipa.go.jp/1_07toukei/_index_toukei.html)

問合せ先 独立行政法人 情報処理推進機構  
戦略企画部 企画・調査G 笛木・中山  
〒113-6591  
東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号  
文京グリーンコートセンターオフィス  
TEL : 03-5978-7503  
E-mail : spd-plan@ipa.go.jp